

# あたらしくはいった本 (令和4年12月 貸出開始資料から)

- 小説 タスキメシ-五輪(額賀濤/著) 秋雨物語(貴志祐介/著) 水(北村薫/著) ゴッホの犬と耳とひまわり(長野まゆみ/著) 黒石(大沢在昌/著) 教誨(柚月裕子/著) グッドナイト(折原一/著) 息をつめて(桂望実/著) ギフテッド(藤野恵美/著) 私のことだま漂流記(山田詠美/著) 秋麗(今野敏/著) 連鎖(黒川博行/著) タングル(真山仁/著) ジャクソンひとり(安堂ホセ/著) 惑う星(リチャード・パワーズ/著) 時ありて(イアン・マクドナルド/著)
- 随筆・詩などの文学 旅行鞆のガラクタ(伊集院静/著) こりずにわるい食べもの(千早茜/著) フランスの街の夜(遠藤周作/著) 万葉考古学(上野誠/編) ある行旅死亡人の物語(武田淳志、伊藤亜衣/著)
- その他の本 脳梗塞の再発を防ぐ(岡田靖/監修) 別れても相続人(寺門美和子、木野綾子/著) “承認欲求”捨ててみた(諸富祥彦/著) 一冊でわかるタイ史(柿崎一郎/著) 3歳語辞典(101/著) 消滅危機世界遺産(ペーテル・エークハウト/著)

## みんなの としょかん



市民図書館  
TEL (921) 4646  
FAX (921) 4896  
<http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/>



『タスキメシ-五輪-』  
額賀濤  
小学館



『秋雨物語』  
貴志祐介  
KADOKAWA



『水』  
北村薫  
新潮社

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来館の際はマスク着用などの協力をお願いします。

## としょかんカレンダー

令和5年	日	月	火	水	木	金	土
2				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28				

○印の日は、お休みです。

開館時間 午前10時から午後6時まで

金曜・土曜(祝日除く・太字の日)は午後7時まで

## 御供屋別当信興、牛車を許される

戦国時代中頃の天文17(1548)年3月、太宰府天満宮の社家の一つである御供屋別当の信興は、神事に参加する際の「乗車」を許可されました。この場合、「車」とは牛車のことです。牛車に乗ることを許されたのです。牛車は本来、貴族を始め身分の高い人の乗り物で、乗る人の地位によって造りに細かい違いがありました。牛車に乗るのを許されたということは、それに見合った地位が与えられたことを意味します。戦国時代というと実力だけが全ての世の中だと思われがちですが、実際はこのように栄誉や権威ある形式を求める風潮も盛んでした。



～公文書館だより⑩～

ちからは反対されていましたが、何度も大内氏に訴えていました。大内義隆の方も、これについて問題なしと判断し、家臣に上京して菅原氏に話をするよう再三にわたって命じたものの、遠路のため実現しないまま数年が経過したようです。そこに、幸運にも長淳本人が京都から大内氏の元に下向してきたので、子細を説明して許可を取り付けるに至ったのです。このように天満宮の社家と菅原氏との間で、大内氏が仲介の労を取っている事実は、大内氏と天満宮の関係を考える上で興味深いと思います。

また、この時に信興は多額のお札を献上したようで、史料に記録されている分だけでも菅原氏には銭千疋(百疋＝1貫文)、大内氏には黄金2枚・銭3千7百疋・太刀3腰・馬3疋・樽酒5つ・その他2品目が見られます。恐らく他にも金品を双方に贈ったのではないでしょう。ステータスを手に入れるためには、多くの出費を必要とした様子がかがえます。

太宰府市公文書館 大塚 俊司

【バックナンバーはこちら】 ページID7241